

特記仕様書

1. 業務概要

(1) 業務名称	番田橋水管橋補修等検討業務
(2) 対象施設概要	
ア. 施設名称	番田橋水管橋
イ. 業務場所	南房総市富浦町深名509番1地先
(3) 業務目的	本業務は、経年劣化により一部腐食している水管橋（平成9年架設）の修繕等の対策案を作成することを目的とする。当該水管橋は宮本配水場の重要な水管橋であり、漏水、断水等が発生すれば甚大な被害が出るのが想定される。その為必要な修繕、補強または架け替え等の対策案を策定し、安全性・耐久性・経済性の観点から多角的に比較検討を行うものである。
(4) 履行期間	契約日の翌日～令和 8 年 1 2 月 1 1 日（このうち、検査期間として9日間を見込んでいる。）
(5) 特記仕様書の適用	本特記仕様書に記載されていない事項は、千葉県県土整備部が定める設計業務共通仕様書の最新版によるものとする。 なお、本特記仕様書において、□又は■の記載のある事項については、「■」印が付いた事項を適用し、「□」印が付いた事項は適用しない。
(6) 設計条件	
ア. 基本条件	水管橋補修検討（1 橋） ・南房総市富浦町深名509番1地先 延長L＝4 2. 6 m S T W 4 0 0 A
☐ イ. 特殊な条件	
☐ ウ. 敷地条件	
☐ (ア) 敷地面積	約 m ²
☐ (イ) 地形	平地
☐ (ウ) 用途地域等	地域（建蔽率 %、容積率 %）
☒ エ. 設計方針	補修方法を検討し、必要であれば架設替を実施する。
☐ オ. 条件明示	☐受注者は、国土交通省「条件明示チェックシート(案)」に必要事項を記載し、業務の成果として、業務完了時に監督職員に提出するものとする。 ☐受注者は、発注者が貸与する「条件明示チェックシート(案)」に記載された設計条件等を確認し、業務スケジュール管理に活用するとともに、「条件明示チェックシート(案)」に必要事項を追記し、業務の成果として、業務完了時に監督職員に提出するものとする。 次年度予算の参考とするため、期限前であっても概算資料を提出すること。
☒ カ. 一部納品	
(7) テクリスの登録	受注者は、契約金額が 100万円以上の業務については、契約後10日以内にその業務内容を測量調査設計業務実績情報システム（TECRIS：テクリス）に登録し、業務カルテを提出すること。
(8) 疑義の解釈	本特記仕様書及び標準仕様書（以下、「本仕様書」という。）に定めのない事項、又は、本仕様書の解釈について疑義が生じた場合は、当事者は本契約及び本仕様書の趣旨に従い、誠意をもって協議の上これを定め、解決するものとする。

2. 仕様

(1) 技術者の資格等

ア. 管理技術者

技術者は、次に示す資格のうち、いずれかの資格保有者とする。

- ☒ 技術士 : ☒ 上下水道 ☐ 衛生工学 ☐ 機械 ☐ 電気電子
☐ 建設 ☐ 環境 ☐ 総合技術監理 ☐
☒ R C C M : ☒ 上水道及び工業用水道 ☐ 施工計画、施工設備及び積算
☐ 機械 ☐ 電気電子 ☐ 地質 ☐
☐ 特別上級土木技術者 : ☐ 地盤・基礎 ☐ 設計 ☐ 環境 ☐
☐ 上級土木技術者 : ☐ 地盤・基礎 ☐ 設計 ☐ 環境 ☐
☐ 1 級土木技術者 : ☐ 地盤・基礎 ☐ 設計 ☐ 環境 ☐
☐ ☐ ☐ これと同等の能力と経験を有する技術者

イ. 照査技術者

- ☒ 技術士 : ☒ 上下水道 ☐ 衛生工学 ☐ 機械 ☐ 電気電子
☐ 建設 ☐ 環境 ☐ 総合技術監理 ☐
☒ R C C M : ☒ 上水道及び工業用水道 ☐ 施工計画、施工設備及び積算
☐ 機械 ☐ 電気電子 ☐ 地質 ☐
☐ 特別上級土木技術者 : ☐ 地盤・基礎 ☐ 設計 ☐ 総合 ☐
☐ 上級土木技術者 : ☐ 地盤・基礎 ☐ 設計 ☐ ☐ ☐
☐ 1 級土木技術者 : ☐ 地盤・基礎 ☐ 設計 ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ これと同等の能力と経験を有する技術者

□ (2) 貸与資料

(貸与資料は業務実施に必要な資料とし、一覧表で明示し、初回打合せ時に貸与することを原則とする。また、受注者から資料貸与の要求があった場合もすみやかに対応する。)

(3) 業務内容

□ ア. 現地調査・踏査

(現地踏査の内容を超える調査が必要な場合は、現地調査として具体的内容を明示する。)

□ イ. 関係機関協議

(関係機関協議用の資料作成が必要な場合は、協議先と協議回数等を明示し、実施回数に応じて、変更の対象とすることを明示する。)

■ ウ. 設計計画

- ☒ 標準仕様書及び本特記仕様書に示す業務内容を確認し、施工計画等について、業務計画書を作成すること。
☐ 本設計内容は、基本計画が未策定であるため、工法、構造形式、仮設等について、構造特性、施工性、経済性、維持管理及び環境等の観点に照らして整理及び評価し、比較検討を行うこと。

エ. 打合せ

- ☒ 業務着手時、中間打合せ 2 回、成果品納入時の計 4 回行うものとする。
☒ なお、中間打合せは、監督職員と協議の上、打ち合わせ回数を変更できるものとする。

□ オ. 配水管設計

- ☐ 開削工法 ☐ 推進工法 ☐ 既設管内配管工法 ☐ シールド工法
☐ 新設 ☐ 布設替 ☐ 新設及び一部布設替
☐ 基本設計 ☐ 詳細設計
☐ 公図調査 ☐ 各種計算
☐ 設計計画 ☐ 発進立坑 ☐ 到達立坑 ☐ 1 次覆工 ☐ 2 次覆工
☐ 図面作成 : ☐ 位置図 ☐ 平面図 ☐ 管割標準図 ☐ 配管詳細図
☐ 構造図 ☐ 横断面図 ☐ 縦断面図 ☐ 占用申請に必要な図面
☐ 数量計算 ☐ 概算工事費算出

■ カ. 水管橋設計

- ☐ パイプビーム形式 ☐ フランジ補剛形式 ☒ トラス補剛形式 ☐ 添架方式
☐ 新設 ☐ 布設替 ☐ 新設及び一部布設替

☒ 基本設計 ☐ 詳細設計
☒ 設計計算 ☒ 数量計算 ☒ 概算工事費算出
☒ 設計内容： ☒ 上部工 ☐ 橋台工 ☐ 基礎工 ☐ 架設工 ☐ 仮設工
☒ 図面作成： ☒ 平面図 ☒ 側面図 ☐ 上下部工構造図 ☐ 基礎工構造図

☐ キ. 構造物設計
☐ (ア) 基本条件

☐ 新設 ☐ 更新 ☐ 一部新設 (対象：)

対象施設		基本設計	詳細設計			
			土木	建築	機械	電気
配水池	配水池・調整池 (☐ PC ☐ RC ☐ 鋼製)	☐	☐	☐	—	☐
	場内配管	☐	☐	—	—	—
	場内整備	☐	☐	—	—	—
ポンプ場	ポンプ施設	☐	—	☐	☐	☐
	自家発電施設	☐	—	☐	—	☐
	塩素注入施設	☐	—	☐	☐	☐
	場内配管	☐	☐	—	—	—
	場内整備	☐	☐	—	—	—
	配水池・調整池 (☐ PC ☐ RC ☐ 鋼製)	☐	☐	☐	—	☐
浄水場	造成	☐	☐	—	—	—
	着水井	☐	☐	—	—	☐
	原水槽	☐	☐	—	—	☐
	急速攪拌池	☐	☐	☐	☐	☐
	フロック形成池	☐	☐	☐	☐	☐
	沈殿池	☐	☐	☐	☐	☐
	薬品沈殿池	☐	☐	☐	☐	☐
	急速ろ過池	☐	☐	☐	☐	☐
	膜ろ過装置	☐	—	☐	☐	☐
	紫外線照射装置	☐	—	☐	☐	☐
	塩素混和池	☐	☐	—	—	☐
	浄水池	☐	☐	☐	—	☐
	送水ポンプ施設	☐	—	☐	☐	☐
	共同溝	☐	☐	☐	☐	☐
	場内配管	☐	☐	—	—	☐
	排水池	☐	☐	—	☐	☐
	排泥池	☐	☐	☐	☐	☐
	濃縮槽	☐	☐	☐	☐	☐
	天日乾燥床	☐	☐	☐	☐	☐
	機械脱水装置	☐	☐	☐	☐	☐
	管理本館	☐	—	☐	☐	☐
	薬品注入施設	☐	—	☐	☐	☐
	ろ過膜薬品洗浄施設	☐	—	☐	☐	☐
	中央監視操作施設	☐	—	—	—	☐
	自家発電施設	☐	—	☐	—	☐
	受配電施設	☐	—	—	—	☐
	場内整備	☐	☐	—	—	☐

☐ (イ) 基本設計

☐ 基本条件の確認 ☐ 浄水フローの検討 ☐ 維持管理方法の検討 ☐ 配置計画の検討

☐海岸 (□等深線図作成を含む) 水面幅 平均 m
☐用地測量 : 地域 : 縮尺 : 1 /
☐資料調査
(□転写 : □公図 □地積測量図 □登記記録調査 (□土地□建物)
☐権利者確認 (□当初□追跡) □公図等転写連絡図作成)
☐境界確認
(□復元測量 □境界確認 □土地境界確認書作成)
☐境界測量
(□補助基準点設置□境界測量 □境界 (□仮杭設置□本杭設置))
☐境界点間測量 □面積計算
☐用地実測原図等作成
(□用地実測原図等作成 □用地現況測量 (建物等)
☐用地平面図作成 □土地調書作成)
☐公共用地境界確定協議 (地域 : 縮尺 : 1 /)
☐地形測量 : □空中写真測量 (地形 : 地域 :)
(□撮影 (デジタル) □対空標識の設置□標定点測量 □簡易水準測量
☐同時調整 □数値図化 (□レベル1000 □レベル2500))
☐現地測量 (縮尺 : 1 / 地形 : 地域 :)
☐航空レーザ測量 (□レベル1000 □レベル 500)
☐三次元点群測量 : □UAV写真点群測量□地上レーザ測量 □UAVレーザ測量
☐測量調査 ()
☐サ. 地質調査
☐機械ボーリング (土質・岩質 : 孔深度 : 穿孔方向 :)
☐サウンディング及び原位置試験 :
☐標準貫入試験 (□粘性土・シルト 回 □砂・砂質土 回
☐礫混じり土砂 回 □玉石混じり土砂 回
☐固結シルト・固結粘土 回 □軟岩 回)
☐孔内載荷試験 (□普通載荷 回 □中厚載荷 回 □高圧載荷 回)
☐現場透水試験 (□オーガー法 回 □ケーシング法 回
☐一重管式 回 □二重管式 回 □揚水式 回)
☐スウェーデン式サウンディング m
☐機械式コーン貫入試験 (□20kN m □ 100kN m)
☐ポータブルコーン貫入試験 (□単管式 m □二重管式 m)
☐現場内小運搬 (□人肩 □特装車 □モノレール □索道)
☐足場仮設 (□平坦地足場 : 高さ □ 3.0m以下 箇所 □ 3.0m超 箇所
☐湿地足場 : 箇所
☐傾斜地足場 : 地形傾斜 □15° ~30° 未満 箇所
□30° ~40° 未満 箇所
□40° ~60° 箇所
☐水上足場 :
水深 □ 1 m以下 箇所 □ 3 m以下 箇所 □ 5 m以下 箇所)
☐解析等調査業務 (□既存資料の収集・現地調査
☐資料整理とりまとめ : □直接調査費分 □解析等調査業務費分
☐断面図等の作成 : □直接調査費分 □解析等調査業務費分

	☐ 総合対策とりまとめ ☐ 打合せ)
■ シ. 審査・照査	基本条件確認、比較検討確認、計画の妥当性、図面と計算書の整合性、計算書及び数量の精査を行うこと。
■ ス. 報告書作成 セ. 成果物	本業務に関し、検討結果をまとめた報告書を作成すること。
■ (ア) 提出媒体	■金文字製本 1冊 ■パイプ式ファイル 1冊 ■DVD-R 1枚
■ (イ) 内容・項目	☐ 比較検討書 ■数量計算書 ■特記仕様書 ■概算設計書 ■調査・渉外記録簿 ■打合せ記録簿 ☐ その他監督員が必要とする資料 ()
■ (ウ) 図面	各 1 部
(エ) 根拠資料の明示	本業務上の根拠資料は、報告書等に明示すること。
(オ) 責任範囲	受注者は、業務完了といえども後測、又は、設計内容の失策が発見された場合、及び、工事着手にあたり、施工上困難な場合は速やかに、図書の訂正、補足その他必要な措置をとらなければならない。